

下田で少しふらふらした後、今度は北へ向かい、出発した。
また、海沿いの道である。しかも日中、自転車をこいでいるので、ますます暑
い。僕は、これまで、海沿いにある道は、海に接しているので、
海拔高度もなく、平らな道であると思っていたが、そんなことは大間違い
で、伊豆の海岸線は、ほとんどが、断崖であり、ところどころ、
ある平地との上下差が大きく、つまり坂が夕しいので、
自転車では、つかれるわけですよ。途中、白浜という、湘南海岸
とは比べものにならないほど、きれいで、その名の通り、白い海岸に
なりました。また、3月なので、あまり人はいなかったが、それでも、
砂浜でたむろんでいる人々もいた。ほとんど、断崖なので、山道と
同じように疲れる。登り坂がきつ分、下り坂は、乗で、とにかく
スピードがでる。車なんか追い抜かしてしまう。ペダルの回転に
足が追いつかない。下り坂では、万有引力の法則により、
スピードが増しつづける。あまりのスピードのため、目から涙が、
出てきたり、口からよたれが、でてきたりする。目がいたくて、あまり、
開けていられない。とにかく、速いのである。下り坂では、僕も、
かなり、速いのだけれども、登り坂では、力の差で、**■**の方がスピード
が速いので、僕はいつもおくらせてしまい、すこし先で**■**に、待って
もらって、ついてきて、かつこう迷惑をかけたりました。そろそろ日も
沈んできたし、前日はほとんど寝たので、今日は宿にとおつと
いうことで、僕は、泊まるべく、温泉町をさかした。少し、
自転車をこいたところに、赤沢という温泉町があった。赤沢には、
四軒の民宿があったが、その中で、1泊2食付で1人4500円であった
「松登苑」という名の民宿に泊まることにした。他の宿はすべて
5000円以上であった。「松登苑」という宿の横には、その名の通り、
高さ20m以上はあると思える巨大な松の木が一本ありました。
客は、僕らの他には僕もいませんでした。僕らの部屋は2階にあり、
約4.5畳位の部屋でした。TVはあったのだけれども、ラジオが
なかったのので、その日は月曜日というにもあり、民宿のおばさんが、
ラジオをかりました。というのも、月曜日の夜、(つまり火曜日の
朝)には、辻仁成の All NIGHT NIPPON が深夜3時から on air
されるのです。部屋で荷物を整理した後、夕食を食べました。
つかれていて、腹もすいていて、この旅行中、ほとんど、たいしたものを、食べ
ていなかったのので、夕食がとておいしく思えました。その後、ふらに、
入りました。温泉といえども、屋外ではなく、屋内なので、ふらふらの
ふらを大きくしたお湯(銭湯お湯は少し)ふらでした。ふらから、
出たあと、夜のために、おかし、などを買って行こうとし、民宿のおじさんに、
店のありがたを、聞いた。おじさんが、店に連れていってくれました。
ちなみに、ここ赤沢には店は2店しかありません。もう店が閉っていたの
であが、おじさんは、ホーンもなすさないので、その店の裏口から、僕らを
勝手に、店に入れてくれました。(この赤沢という、村落みたいな、
共同体一前、右、左は、海に面して、後はすこ断崖絶壁が
あり、人も100人が200人位しか住んでいないと思われる小さな生活
共同体は、僕たちの生活共同体とは異なる感じがある、なごやかで
at home な感じのある共同体であるように、僕には思えました。
たまた、わずか、数十kmほどの距離しか、離れていないのに、異なる
文化とは言わなければ、異なる人間性みたいなものがあることに、
僕はなんたか、しんじみ感動してしまいました。) そして、その店などで、
食べものなどを買って宿に戻りました。宿屋のおじさんや、店のおばさん
なども、僕らな、神奈川から自転車で、旅行していることに、かなり驚いて
おな気がしました。部屋に戻りTVをつけると、TOP TEN をやっていた。
僕はつかれていたのので、All NIGHT NIPPON も聞かずに、知らぬまに、寝て
しまった。